

意見陳述

被控訴人 根田祥一

訴状を受け取ったとき、私の心に浮かんだのは「あなたがこの立場にいるのは、この時のためだったのではないか？」という聖書のことばでした。クリスチャントゥデイは、普通のキリスト教メディアではない、何かを隠していると気づいたのは20年前のことです。同じ頃、韓国でもアメリカでも、香港でもオーストラリアでも、ジャーナリストたちが「ダビデ張」こと張在亨氏の疑惑を追及していました。そして、彼が1970年代から統一協会の幹部であったこと、自分を「再臨のキリスト」と密かに信じさせていることを突き止めました。

私はその事実をクリスチャン新聞で報道しました。それに対して、クリスチャントゥデイは事実をもって反論することなく、「異端捏造の黒幕根田祥一氏」などと私の信憑性を貶める中傷を繰り返しました。この個人攻撃の手法は、諸外国のメディアや証言者に対しても全く同じです。真実を語る人々は「信用できない人物」であるかのように誹謗されてきました。

私は、記事を撤回して謝罪しなければ法的な措置を取ると、クリスチャントゥデイから、たびたび脅しを受けました。しかし実際に訴えられることはありませんでした。それは私の書いた記事が、否定できない事実裏付けられていたからだと思います。

しかし、ブログで張氏の異端疑惑を追及していた救世軍の牧師山谷真氏が、クリスチャントゥデイから民事訴訟を提起されました。その裁判の判決では、名誉毀損に問われたブログ記事87カ所中の41カ所で「真実・相当性」が認められました。その41カ所の中に、原告が頑なに否定し続けていた、クリスチャントゥデイと張在亨氏の関係、そして、彼の組織との関係が認定されたのです。ところが山谷氏は、さらに圧力を受けて法的和解に追い込まれ、この問題で発言することができなくなりました。

その後、実態を知らず外部から採用されてクリスチャントゥデイに勤めていた中橋祐貴氏が、矢田社長の嘘に気づきました。中橋氏は共同体の脱会者たちにインタビューし、ブログ「ダビデ牧師と共同体を考える会」を立ち上げ、匿名で彼らの証言を掲載しました。クリスチャントゥデイは中橋氏を名誉毀損で提訴し、法的和解と謝罪に追い込みました。

そして3年前の暮れに、私が訴えられました。本件では、山谷氏や中橋氏が明らかにした共同体の真実、すなわち若者たちがダビデ牧師を「再臨のキリスト」と信じるように誘導されたこと、「使役」の名の下にタダ働きをさせられたこと、カードローンを組み立て多額の献金を強要されたこと、ときに未払い家賃の肩代わりまでさせられたこと、張氏を守るために嘘を強いられたことなど、被害の実態が明らかにされました。そのために二人の脱会者が、嫌がらせや脅しの恐怖に屈することなく、実名で証言してくれました。

「隠されたもので知られずにすむものはない」のです。

原判決の事実認定は、そのような被害者や、被害の実態を見過ごしにできなかった人たちの、勇気ある告発の上になされたものです。東京高等裁判所は、このように積み上げられてきた証拠・証言の真実を見極め、正しい認定をしていただきますよう期待しております。